



第82回 『東日本大震災の復興支援集会』 愛媛中央メーデー大会

メーデースローガン

すべての働く者の連帯で、 働くことを軸とする安心社会と 自由に平和な世界をつくらう!

連合愛媛は、4月29日(金)に松山市堀之内の松山市民会館において、県内から組合員とその家族を含め約1,500名が参加し、第82回愛媛中央メーデー大会を開催しました。

冒頭、「東日本大震災」にて亡くなられた方々のご冥福を祈る黙とうからスタートしました。引き続き、木原実行委員長は、「本日のメーデーは、東日本大震災の復興支援集会と位置づけ「つながろうNIPPON」を合言葉に被災地の救援・復興に全力で取り組むためのメーデー大会へ切り替えました。復興への道のりはかなりの時間必要であり、私たちは長期にわたり支援体制を崩さず、被災された皆さんへ元気を送り続けることを忘れてはならないと思います。そして、原発への対応や、避難所生活への支援等、対応すべき課題が山積しています。今は、何かを誰かのせいにするのではなく、今こそ与野党が一致して取り組むべきであります。また、2011春季生活闘争では、中小・地場が山場を迎えることとなり、予断を許さない状況が想定されますが、連合愛媛は、構成する組織と連携し、早期解決に向け支援体制の強化を行ってまいります。」と訴えました。

続いて、中村愛媛県知事、野志松山市長や連合愛媛が支援している、民主党・社民党等の来賓祝辞・紹介、連合東北ブロックメッセージを紹介し、杉本事務局長から震災以降連合愛媛で取り組んできた救援ボランティア等の報告を行いました。

その後、東日本大震災「つながろうNIPPON 救援宣言」を満場一致で採択し、最後に、木原実行委員長の「ガンパロー三唱」で式典をしめくくりました。

なお、会場入口で実施しましたカンパ活動については、組合員・ご家族も皆さまの善意を頂き、99,290円が集まりました。この善意は、責任を持って「被災の自治体や被災された方々への救援金として寄附」させていただきます。(ご支援・ご協力に感謝申し上げます。)



▲カンパを呼びかける青年・女性委員会

つながろう NIPPON 連合 東日本大震災 各地協で救援カンパ活動を実施

—連合愛媛に寄せられた義援金は5/10時点で総額 595,948 円となりました—

連合愛媛は、今回の愛媛中央メーデーを東日本大震災の復興支援集会と位置づけ「つながろうNIPPON」を合言葉に被災地の救援・復興に全力で取り組むためのメーデー大会へ切り替え、被災者の皆さんへの支援・早期復興を訴えるとともに、メーデー実施中に組合員・ご家族の皆さんへ救援カンパを呼び掛けたり、街頭での救援カンパ活動を広く市民の皆さんへ呼びかけを行いました。

今回の取り組みに対し、組合員・ご家族の皆さんはもちろんのこと、街頭においても小さな子どもさんや年配者の皆さんから多くの善意が寄せられました。(大変、ありがとうございました。)

連合愛媛は、被災者への支援および早期復興を願い、引き続き皆様からの救援カンパのご支援・ご協力をお願いしています。

金融機関：四国労働金庫 松山支店
振込口座：「東北地方地震救援カンパ」
事務局 杉本宗之(スギモトムネユキ)
口座番号：普通 No. 4076081

各地協での取り組み模様

中予地協

4月29日(金)
救援カンパ
29,752円



南予地協

八西支部
4月28日(木)
救援カンパ
14,779円

今治地協

5月1日(日)
救援カンパ
11,351円



東予地協

西条支部
4月29日(金)
救援カンパ
28,266円



新居浜支部

5月1日(日)
救援カンパ
55,711円

四国中央支部

4月29日(金)
救援カンパ
16,205円

各地協におけるメーデー時の救援カンパは、全体で156,064円もの善意をいただきました。皆様の善意は、連合が責任をもって『被災の自治体や被災された方々への救援金として寄附』をさせていただきます。(大変、ありがとうございました。)

つながろう NIPPON 連合

東日本大震災 (岩手・福島)

連合愛媛から救援ボランティア派遣

連合本部は、連合の構成組織の組合員、役職員、地方連合会・連合本部の役職員で構成し、当面、岩手、宮城、福島の3県に確保したベースキャンプを拠点に、一週間交替で、被災地でボランティア活動を行うことを決定しました。当初1週間は合計150名、第2陣以降は週あたり約300名体制を構築し、第1期(～6月)で延べ27,000人規模の派遣を予定しています。

連合愛媛は、本部分針をふまえ、第2陣(4月8日～16日)の岩手県宮古市へ渡辺副事務局長を、そして、第3陣(4月16日～24日)の福島県いわき市へ杉本事務局長・菊川副事務局長を派遣し、被災地の救済ボランティアを実施しました。

現地では、声が出せないほど嘔然とした光景と家財・瓦礫や海砂等が散乱していましたが、住民の皆さんの早期復興に向け、一步一步前進させて行かなくてはと孤軍奮闘し、少しはお役に立てたと自負しています。

また、日々の活動においては、朝一番にボランティアセンターで指示書と道具をもらって現場へ行きますが、「なんと!」必需品のスcoopが我が愛媛県の新居浜建設業協会から贈られたものでした。遠く離れた所で活躍する愛媛のスcoopを使うことが出来て、勇気百倍でした。改めて日本全体が繋がっていることを実感しました。

そして、帰着日に宿泊先からいただいた朝食に暖かいメッセージが書かれており、参加者は、被災してもなお人に優しくできる気持ちに感動しておりました。

最後に、「継続は力なり」ではありませんが、連合という組織力があるからできることと感じました。引き続き、早期復興に向け取り組んでまいりたいと思います。がんばろう日本! つながろうNIPPON!



▲瓦礫の撤去



▲民家の片づけ手伝い



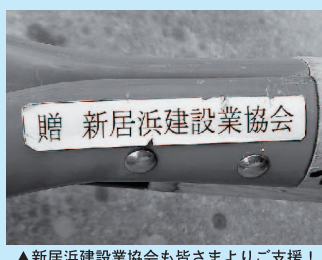
▲海砂をかき出す作業



▲約1ヵ月、手つかずの状態



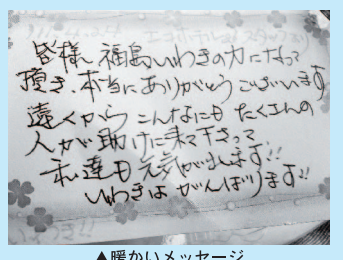
▲まさか、こんなところで
でくわすとは...



▲新居浜建設業協会も皆さまよりご支援!



▲最後のお弁当



▲暖かいメッセージ

※詳細は連合ホームページをご覧ください。